

# 平成23年度 【 学園研究費助成金<学園研B> 】 研究成果報告書

学部名 教育学部

フリガナ オオモリタカコ  
氏名 大森 隆子

研究期間 平成23年度

研究課題名 幼稚園の初期の頃の折り紙教育について

## 研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	大森 隆子	教育学部	教授
研究分担者			
研究分担者			

### 1. 本研究開始の背景や目的等 (200字~300字程度で記述)

現在、幼稚園や保育所等で、折り紙遊びが保育教材の一つとして取り上げられている。しかしその目的や根拠については明らかにされていない。歴史を遡ってみると、その源は江戸時代に折り紙として確立し、様々な形に展開された折形をルーツとするものである。それが明治初期に開設されたドイツのフレーベル式幼稚園の教育内容に位置づいている。何故、どのようにして取り込まれたのかを検証することを通して、我が国の幼児教育施設における折り紙教育の在り方を検討する手掛かりとする。

### 2. 研究方法等 (300字程度で記述)

幼稚園創設期(明治9年)を中心に、文献資料を通して明らかにする。日本の幼稚園創立と発展に関する資料を掲載した『明治保育文献資料集』に収録された『博覧会見聞録』(近藤真琴)、『幼稚園』(桑田親五)他の検証、また、ドイツや欧米資料を踏まえて日本の幼稚園の教育内容を考察した『日本幼稚園成立史の研究』(湯川嘉津美)の検証、さらに実際に保育者として携わった経験談の検証を行う。また、当時の実物資料の検証もあわせて行う。さらに、当時のドイツの折り紙作品が展示されているというゲルマン国立博物館とザクセンフォークアート美術館等を訪ねて、日本の折り紙作品との比較検証をする。折り紙の発祥地は複数あったのか、日本のものが渡ったのかを明らかにすることは、今研究に不可欠である。

### 3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

一般に我が国の近代的幼児教育施設の始まりは、明治9年に東京で開設された官立の東京女子師範学校附属幼稚園とされている。それは、ドイツのフレーベル式幼稚園を基とし、目的、内容・方法等すべてそのまま移入したものと考えられている。当時の文献資料、忠実に翻訳された多くの文書やドイツ人保育者である松野クララ女子の記録、直輸入の教材(恩物等)、それらを学ぶ豊田扶雄を始めとする保育者たちのノートや教材の実物、絵図、当時の園児の回顧録などの検証から、それは一部を除いて確かめられた。

現在幼稚園で扱われている折り紙は、フレーベルの恩物の Paper Folding から出発した。訳語として「畳紙」や「紙タタミ」といった日本語が当てられており、江戸時代後期の「折形(おりがた)」や「折据(おりすえ)」といった伝来の語は外されていたこと、その目的にフレーベルの精神(創造性・自由性など)が置かれていたことも根拠の一つといえる。ところが実際にその折り方の実物を詳細に調べてみると、ドイツ流と日本流の二つの系統が並存していたことが分かった。この点についての言及・考察は、これまで看過されていたように考えられる。筆者の独自の着想として押さえておきたい。

我が国の伝統的な折り紙が、ドイツのフレーベル式折り紙と伍して、当初より幼稚園の教材として子どもたちに供されていたことについて、筆者は次のように考える。日本の幼稚園教育の創設にあたって、外国のものをそのまま取り込むのではなく、日本独自の伝統的文化を取り入れることを試みた先駆的保育者の存在があったことである。この精神を深く考察することを通して、今後の折り紙教育、もしくは幼児期の教育内容の在り方を検討したい。

ドイツの折り紙作品の検証を通して、今後、折り紙の文化的価値・グローバル性に関しても関連づけた研究を進めたい。

### 4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①折り紙教育	②畳紙	③創設期の幼稚園教育	④Paper Folding
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他○名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもの数件を記載。)

「遊戯折り紙研究考(4)——わが国幼稚園創設期の折り紙教育について——」『椋山女学園大学教育学部紀要 Vol.3』2013年3月